

別表第一（第二条関係）

等級	介護を要する後遺障害	保険金額
第一級	一 神経系統の機能又は精神に著しい障害を残し、常に介護を要するもの 二 胸腹部臓器の機能に著しい障害を残し、常に介護を要するもの	四千万円
第二級	一 神経系統の機能又は精神に著しい障害を残し、随時介護を要するもの 二 胸腹部臓器の機能に著しい障害を残し、随時介護を要するもの	三千万円

備考 各等級の後遺障害に該当しない後遺障害であつて、各等級の後遺障害に相当するものは、当該等級の後遺障害とする。

別表第二（第二条関係）

等級	後遺障害	保険金額
第一級	一 両眼が失明したもの 二 咀嚼及び言語の機能を廃したもの 三 両上肢をひじ関節以上で失つたもの 四 両上肢の用を全廃したもの	三千万円

	<p>五 両下肢をひざ関節以上で失つたもの</p> <p>六 両下肢の用を全廃したもの</p>	
第二級	<p>一 一眼が失明し、他眼の視力が〇・〇二以下になつたもの</p> <p>二 両眼の視力が〇・〇二以下になつたもの</p> <p>三 両上肢を手関節以上で失つたもの</p> <p>四 両下肢を足関節以上で失つたもの</p>	<p>二千五百九十万円</p>
第三級	<p>一 一眼が失明し、他眼の視力が〇・〇六以下になつたもの</p> <p>二 咀嚼又は言語の機能を廃したもの</p> <p>三 神経系統の機能又は精神に著しい障害を残し、終身労務に服することができないもの</p> <p>四 胸腹部臓器の機能に著しい障害を残し、終身労務に服することができないもの</p> <p>五 両手の手指の全部を失つたもの</p>	<p>二千二百九十万円</p>
第四級	<p>一 両眼の視力が〇・〇六以下になつたもの</p> <p>二 咀嚼及び言語の機能に著しい障害を残すもの</p> <p>三 両耳の聴力を全く失つたもの</p> <p>四 一上肢をひじ関節以上で失つたもの</p> <p>五 一下肢をひざ関節以上で失つたもの</p> <p>六 両手の手指の全部の用を廃したもの</p> <p>七 両足をリスフラン関節以上で失つたもの</p>	<p>千八百八十九万円</p>
第五級	<p>一 一眼が失明し、他眼の視力が〇・一以下になつたもの</p> <p>二 神経系統の機能又は精神に著しい障害を残し、特に軽易な労務以外の労務に服することができないもの</p>	<p>千五百七十四万円</p>

	<p>三 胸腹部臓器の機能に著しい障害を残し、特に軽易な労務以外の労務に服することができないもの</p> <p>四 一上肢を手関節以上で失つたもの</p> <p>五 一下肢を足関節以上で失つたもの</p> <p>六 一上肢の用を全廃したもの</p> <p>七 一下肢の用を全廃したもの</p> <p>八 両足の足指の全部を失つたもの</p>	
第六級	<p>一 両眼の視力が0.1以下になつたもの</p> <p>二 咀嚼又は言語の機能に著しい障害を残すもの</p> <p>三 両耳の聴力が耳に接しなければ大声を解することができない程度になつたもの</p> <p>四 一耳の聴力を全く失い、他耳の聴力が四十センチメートル以上の距離では普通の話声を解することができない程度になつたもの</p> <p>五 脊柱に著しい変形又は運動障害を残すもの</p> <p>六 一上肢の三大関節中の二関節の用を廃したもの</p> <p>七 一下肢の三大関節中の二関節の用を廃したもの</p> <p>八 一手の五の手指又はおや指を含み四の手指を失つたもの</p>	<p>千二百 九十六 万円</p>
第七級	<p>一 一眼が失明し、他眼の視力が0.6以下になつたもの</p> <p>二 両耳の聴力が四十センチメートル以上の距離では普通の話声を解することができない程度になつたもの</p> <p>三 一耳の聴力を全く失い、他耳の聴力が一メートル以上の距離では普通の話声を解することができない程度になつたもの</p> <p>四 神経系統の機能又は精神に障害を残し、軽易な労務以外の労</p>	<p>千五十 一万円</p>

	<p>務に服することができないもの</p> <p>五 胸腹部臓器の機能に障害を残し、軽易な労務以外の労務に服することができないもの</p> <p>六 一手のおや指を含み三の手指を失つたもの又はおや指以外の四の手指を失つたもの</p> <p>七 一手の五の手指又はおや指を含み四の手指の用を廃したもの</p> <p>八 一足をリスフラン関節以上で失つたもの</p> <p>九 一上肢に偽関節を残し、著しい運動障害を残すもの</p> <p>十 一下肢に偽関節を残し、著しい運動障害を残すもの</p> <p>十一 両足の足指の全部の用を廃したもの</p> <p>十二 外貌に著しい醜状を残すもの</p> <p>十三 両側の睾丸を失つたもの</p>	
第八級	<p>一 一眼が失明し、又は一眼の視力が〇・〇二以下になつたもの</p> <p>二 脊柱に運動障害を残すもの</p> <p>三 一手のおや指を含み二の手指を失つたもの又はおや指以外の三の手指を失つたもの</p> <p>四 一手のおや指を含み三の手指の用を廃したもの又はおや指以外の四の手指の用を廃したもの</p> <p>五 一下肢を五センチメートル以上短縮したもの</p> <p>六 一上肢の三大関節中の一関節の用を廃したもの</p> <p>七 一下肢の三大関節中の一関節の用を廃したもの</p> <p>八 一上肢に偽関節を残すもの</p> <p>九 一下肢に偽関節を残すもの</p>	八百十九万円

	十 一足の足指の全部を失つたもの	
第九級	<p>一 両眼の視力が〇・六以下になつたもの</p> <p>二 一眼の視力が〇・〇六以下になつたもの</p> <p>三 両眼に半盲症、視野狭窄又は視野変状を残すもの</p> <p>四 両眼のまぶたに著しい欠損を残すもの</p> <p>五 鼻を欠損し、その機能に著しい障害を残すもの</p> <p>六 咀嚼及び言語の機能に障害を残すもの</p> <p>七 両耳の聴力が一メートル以上の距離では普通の話声を解することができない程度になつたもの</p> <p>八 一耳の聴力が耳に接しなければ大声を解することができない程度になり、他耳の聴力が一メートル以上の距離では普通の話声を解することが困難である程度になつたもの</p> <p>九 一耳の聴力を全く失つたもの</p> <p>十 神経系統の機能又は精神に障害を残し、服することができる労務が相当な程度に制限されるもの</p> <p>十一 胸腹部臓器の機能に障害を残し、服することができる労務が相当な程度に制限されるもの</p> <p>十二 一手のおや指又はおや指以外の二の手指を失つたもの</p> <p>十三 一手のおや指を含み二の手指の用を廃したもの又はおや指以外の三の手指の用を廃したもの</p> <p>十四 一足の第一の足指を含み二以上の足指を失つたもの</p> <p>十五 一足の足指の全部の用を廃したもの</p> <p>十六 外貌に相当程度の醜状を残すもの</p>	<p>六百十</p> <p>六万円</p>

	十七 生殖器に著しい障害を残すもの	
第十級	<ul style="list-style-type: none"> <li>一 一眼の視力が0.1以下になつたもの</li> <li>二 正面を見た場合に複視の症状を残すもの</li> <li>三 咀嚼又は言語の機能に障害を残すもの</li> <li>四 十四歯以上に対し歯科補綴を加えたもの</li> <li>五 両耳の聴力が一メートル以上の距離では普通の話声を解することが困難である程度になつたもの</li> <li>六 一耳の聴力が耳に接しなければ大声を解することができない程度になつたもの</li> <li>七 一手のおや指又はおや指以外の二の手指の用を廃したもの</li> <li>八 一下肢を三センチメートル以上短縮したもの</li> <li>九 一足の第一の足指又は他の四の足指を失つたもの</li> <li>十 一上肢の三大関節中の一関節の機能に著しい障害を残すもの</li> <li>十一 一下肢の三大関節中の一関節の機能に著しい障害を残すもの</li> </ul>	<p>四百六十一万円</p>
第十一級	<ul style="list-style-type: none"> <li>一 両眼の眼球に著しい調節機能障害又は運動障害を残すもの</li> <li>二 両眼のまぶたに著しい運動障害を残すもの</li> <li>三 一眼のまぶたに著しい欠損を残すもの</li> <li>四 十歯以上に対し歯科補綴を加えたもの</li> <li>五 両耳の聴力が一メートル以上の距離では小声を解することができない程度になつたもの</li> <li>六 一耳の聴力が四十センチメートル以上の距離では普通の話声を解することができない程度になつたもの</li> </ul>	<p>三百三十一万円</p>

	<p>七 脊柱に変形を残すもの</p> <p>八 一手のひとさし指、なか指又はくすり指を失つたもの</p> <p>九 一足の第一の足指を含み二以上の足指の用を廃したもの</p> <p>十 胸腹部臓器の機能に障害を残し、労務の遂行に相当な程度の支障があるもの</p>	
第十二級	<p>一 一眼の眼球に著しい調節機能障害又は運動障害を残すもの</p> <p>二 一眼のまぶたに著しい運動障害を残すもの</p> <p>三 七歯以上に対し歯科補綴を加えたもの</p> <p>四 一耳の耳殻の大部分を欠損したもの</p> <p>五 鎖骨、胸骨、ろく骨、けんこう骨又は骨盤骨に著しい変形を残すもの</p> <p>六 一上肢の三大関節中の一関節の機能に障害を残すもの</p> <p>七 一下肢の三大関節中の一関節の機能に障害を残すもの</p> <p>八 長管骨に変形を残すもの</p> <p>九 一手のこ指を失つたもの</p> <p>十 一手のひとさし指、なか指又はくすり指の用を廃したもの</p> <p>十一 一足の第二の足指を失つたもの、第二の足指を含み二の足指を失つたもの又は第三の足指以下の三の足指を失つたもの</p> <p>十二 一足の第一の足指又は他の四の足指の用を廃したもの</p> <p>十三 局部に頑固な神経症状を残すもの</p> <p>十四 外貌に醜状を残すもの</p>	二百二十四万円
第十三級	<p>一 一眼の視力が〇・六以下になつたもの</p> <p>二 正面以外を見た場合に複視の症状を残すもの</p>	百三十九万円

	<p>三 一眼に半盲症、視野狭窄又は視野変状を残すもの</p> <p>四 両眼のまぶたの一部に欠損を残し又はまつげはげを残すもの</p> <p>五 五歯以上に対し歯科補綴を加えたもの</p> <p>六 一手のこ指の用を廃したもの</p> <p>七 一手のおや指の指骨の一部を失つたもの</p> <p>八 一下肢を一センチメートル以上短縮したもの</p> <p>九 一足の第三の足指以下の一又は二の足指を失つたもの</p> <p>十 一足の第二の足指の用を廃したもの、第二の足指を含み二の足指の用を廃したもの又は第三の足指以下の三の足指の用を廃したものの</p> <p>十一 胸腹部臓器の機能に障害を残すもの</p>	
<p>第十 四級</p>	<p>一 一眼のまぶたの一部に欠損を残し又はまつげはげを残すもの</p> <p>二 三歯以上に対し歯科補綴を加えたもの</p> <p>三 一耳の聴力が一メートル以上の距離では小声を解することができない程度になつたもの</p> <p>四 上肢の露出面にてのひらの大きさの醜いあとを残すもの</p> <p>五 下肢の露出面にてのひらの大きさの醜いあとを残すもの</p> <p>六 一手のおや指以外の手指の指骨の一部を失つたもの</p> <p>七 一手のおや指以外の手指の遠位指節間関節を屈伸することができなくなつたもの</p> <p>八 一足の第三の足指以下の一又は二の足指の用を廃したもの</p> <p>九 局部に神経症状を残すもの</p>	<p>七十五 万円</p>
<p>備考</p>		



- 一 視力の測定は、万国式試視力表による。屈折異状のあるものについては、矯正視力について測定する。
- 二 手指を失ったものとは、おや指は指節間関節、その他の手指は近位指節間関節以上を失ったものをいう。
- 三 手指の用を廃したものとは、手指の末節骨の半分以上を失い、又は中手指節関節若しくは近位指節間関節（おや指にあつては、指節間関節）に著しい運動障害を残すものをいう。
- 四 足指を失ったものとは、その全部を失ったものをいう。
- 五 足指の用を廃したものとは、第一の足指は末節骨の半分以上、その他の足指は遠位指節間関節以上を失ったもの又は中足指節関節若しくは近位指節間関節（第一の足指にあつては、指節間関節）に著しい運動障害を残すものをいう。
- 六 各等級の後遺障害に該当しない後遺障害であつて、各等級の後遺障害に相当するものは、当該等級の後遺障害とする。